

小論文コンテスト表彰式

本会地域振興部が百三十周年記念事業の一環として今年度から始めた「二〇一八年度置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』小論文コンテスト」の表彰式が十月二十八日（日）、ホテルモントビュウ米沢で行われました。

小論文コンテスト実行委員会の種村信次委員長は挨拶の中で、「置賜地区内から若者流出が続く中、高校二年生に地域の将来と自分の生き方を考えてほしいとの願いからこのコンテストを開始した」と趣旨を述べました。次に、伊藤和夫副実行委員長がコンテストの概要について説明し、特に応募者が「小論文作成に取り組んで、地域のことを考えたり、問題解決の手立てが取られていることを知る事ができた、などの点が感じられて大変よかった」と評価しました。

応募総数九十三点の中から、厳正な審査の結果、最優秀賞一編、優秀賞四編、入選五編が選ばれ、大滝則忠審査委員長から受賞者に賞状と副賞が授与されました。

そして、表彰の後、大滝委員長は「起承転結に則り、資料をうまく利用し、実体験に基づいた小論文が多く、

地域の未来と自らの生き方についての強い思いが表現されており、郷土の若者が前向き、意欲的に考えていることを頼もしく思った」と講評を述べました。

なお、十名の受賞小論文は、審査講評・募集要項・資料を含めて、特別の別冊として発行され、この日出席者に贈られました。後日高校など関係者にも贈呈されます。また、本号には最優秀と優秀の五編が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

